

国際シンポジウム

中国と日本の児童文学における家族

近代が「個」の時代であるとするれば、それはまた家族の多様化の時代でもある。ひとりひとりが家族とのあいだにもつ関係だけでなく、その人が自ら築こうと望む家族のありかたも、それぞれに異なるからだ。にもかかわらず、私たちが「家族」にもつイメージ、とりわけ政治や制度にかかわる場面で想起される「家族」のイメージは、どれほど多様になってきただろうか。ひとり親家庭や、同性愛カップルが両親となる家庭、子どもが戸籍をもてない家庭、ヤング・ケアラーによって支えられる家庭 — そうしたさまざまな家庭が存在する現実を、社会はどれだけ受けとめているだろうか。中国と日本の児童文学の視点から考えたい。

11月25日[土] 14:00~17:30

京都大学人文科学研究所 本館4階 大会議室
(事前登録不要。会場にお越し下さい)

オンライン参加も可



(お申し込みは以下のリンク/二次元コードから)

https://zoom.us/webinar/register/WN_I54vOce_T5yAGoS57swgyg

[講演]

秦文君 (中国作家協会児童委員会副主任、上海作家協会副会長、中日児童文学美術交流協会会長)
「私の目のなかの家族、愛、そして児童文学におけるそれらの運用について」成實朋子 (大阪教育大学教授)
「日本児童文学と小学校国語教科書 — 「家族」の描かれ方をてがかりに」

[コメンテーター]

唐亜明 (北京《小活字》社編集長)

[コーディネーター・通訳]

沈恬恬 (東京大学社会科学研究所/日本学術振興会特別研究員PD)

[司会]

立木康介 (京都大学人文科学研究所教授)

参加無料

主催：京都大学人文科学研究所(共同研究「家族と愛の研究」)

共催：科学研究費補助金(基盤(C))「思想(史)的課題としての「家族」」

イラスト：秦文君 著/陈伟 绘『小香咕和变魔法的凤仙婆婆』カバーより

講師


秦文君 [チンウェンチュン]

中国作家協会児童委員会副主任、上海作家協会副会長、中日児童文学美術交流協会会長

上海生まれ。文化大革命の渦中に、17歳で黒竜江省の森林区で伐採工、20歳で同森林区の学校の教員になる。1980年に故郷に戻り、児童文学作品を執筆する傍ら、82年に文芸編集者として上海少年児童出版社に入社。以来、40年以上にわたり、雑誌『児童文学選刊』及び『中国児童文学』の編集長、上海少年児童出版社の名誉総編集長を歴任。2009年、『中国新文学大系・児童文学巻』（『中国現代文学』分野の定礎作で、文化出版・文学研究の古典とされる）を編纂。2011年、中国初の公益的な児童読書クラブ「小香咕読書の家」を創設。2013年、第一回上海国際児童図書展の文学キュレーターを務める。作家として70編以上の作品があり、多くの作品が日本語をはじめ各国語に翻訳されている。代表作に、『シャンハイ・ボーイ チア・リ君』、『调皮的日子』(Naughty, Carefree and Not Overseen)、『会跳的向日葵』(The Dancing Sunflower)、『雲裳』(Cloud-dress)、『少女罗薇』(Luo Wei The Young)、『云三彩』(Clouds with Three-Colour Glaze)、『小香咕系列』(Cluckie and Her Cousins) など。自意識、才能と寛容、抱負と視野、故郷の経験、成長と喪失といった幼年時代のモチーフを、詩的な表現で綴る。

講師


成實朋子 [なるみともこ]

大阪教育大学教授

専門は日中比較児童文学・日中比較国語教育。大阪教育大学大学院在学中に、中国政府奨学金で南京師範大学に留学。現在、日中児童文学美術交流センター事務局長、アジア児童文学日本センター副会長等も務める。主な著作に論文「清末児童文学と明治児童文学の交差点 — 清末中国の『蒙学报』と明治期日本の『少年世界』」（『学大国文』、2015）、評論「東アジア児童文学のゆくえ①～⑥」（『日本児童文学』、2018）等がある。

コメンテーター


唐亞明 [タンヤミン]

北京《小活字》社編集長

北京生まれ。新聞記者、翻訳者を経て1983年来日、福音館書店入社。早稲田大学文学部卒業、東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程満期退学。編集者のかたわら、早稲田大学、東洋大学、上智大学非常勤講師を務める。長年、NHK国際放送にたずさわる。JBBY理事、ブックスタート理事、ポロニアブックフェア原画展審査員、小松樹賞審査員などを務める。主な著書に『ビートルズを知らなかった紅衛兵』『さくらの気持ち パンダの苦悩』(岩波書店)、『翡翠露』(第8回開高健賞奨励賞)、絵本に『ナージャとりゅうおう』(第22回講談社出版文化賞絵本賞)、『西遊記』(第48回産経児童出版文化賞)、『空城の計』『なみだでくずれた万里の長城』(岩波書店)、『火焰山をこえて』『うちにパンダがいるよ』(偕成社)など、訳書に上皇后美智子様著『橋をかける』(上海少年児童出版社)、佐野洋子著『100万回生きたねこ』(広西接力出版社)、姜戎著『神なるオオカミ』『大草原のちいさなオオカミ』(講談社)などがある。現在、北京の児童書出版《小活字》編集長を務める。

コーディネーター・通訳

沈恬恬 [しんてんてん]

東京大学社会科学研究所／日本学術振興会特別研究員PD

上海生まれ。1999年来日。2012年3月、大阪大学大学院文学研究科博士課程修了(文学博士)、2022年3月、京都大学大学院法学研究科博士後期課程修了(法学博士)。専門は思想史・租税法。民間企業での勤務、京都大学人文科学研究所研究支援推進員、研究員などを経て、現在、東京大学社会科学研究所／日本学術振興会特別研究員PD。著書に『介入の技法：課税要件論再考』(成文堂)、訳書に那須田淳著『ペーターという名のオオカミ』(上海少年児童出版社)がある。

司会

立木康介 [ついきこうすけ]

京都大学人文科学研究所教授

専門は精神分析。パリ第8大学精神分析学科博士課程修了、精神分析学博士。著書：『精神分析と現実界』(人文書院)、『露出せよ、と現代文明は言う』(河出書房新社)、『狂気の愛、狂女への愛、狂気のなかの愛』(水声社)、『女は不死である』(河出書房新社)、『極限の思想 ラカン』(講談社)ほか。

お問い合わせ


京都大学人文科学研究所

Institute for Research in Humanities, Kyoto University

京都大学人文科学研究所総務掛

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 TEL: 075-753-6902

 ✉ z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp <https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>
